

お練り行事」について

(「お盆に因み思うこと」の続編)

清水健二

お練りの発祥の地は、奈良県葛城市にある當麻寺です。

當麻寺は中将姫の物語が背景にあり、7世紀半ば大化改新で名を馳せた中臣鎌足(藤原鎌足)の血を引く父を持つ中将姫が実母を亡くし、継母と暮したものの継母から姫の才艶を妬まれ虐められて、姫は當麻寺で出家し比丘尼となった。そこで蓮華の糸で仏の世界を描いた曼荼羅を織り、よく仏教に帰依したといわれ、今も大きな五輪塔が建っている。

実在のお釈迦さんは約2500年前に、仏の世界を仮想し西方に極楽浄土があって、そこに阿弥陀さんがおられると説かれた。人々は比丘尼(中将姫)をその極楽浄土へ導くため、25人の菩薩達に橋渡しを願った。此岸から彼岸へ練歩いた様子を、現世の舞台上で表現したのが始まりのようです。後年、謡曲や浄瑠璃、また歌舞伎などで、広く庶民に伝えられ各地で練り供養として伝えられて行ったのです。

またお釈迦さんが説法された言葉(仏説)を弟子達がまとめ、それが7千余巻になり、すべてを一切経と呼び、阿弥陀経はその中の一つです。阿弥陀経を1万部読誦する練り供養から「万部おねり」と名付けられ、前回ご紹介した大阪市平野の名刹大念仏寺もこれを受け継いできています。「お練り行事は」各地でも行われていて、宗派に関係はなさそうです。

因みに、発祥の當麻寺は浄土宗大和本山ですが、平安時代弘法大師が参籠し、今は真言宗との両宗となっています。八尾市に住む私のすぐ近くに古刹常光寺があり、ここは禅寺で臨済宗ですが、「お練供養」と「稚児祭り」が一緒になって毎年施行されています。

お練り発祥の當麻寺は、大阪府と奈良県の境にある二上山の麓にあり、奈良県側に東塔と西塔を備え国宝を多く有する大寺です。山麓から眺める夕日が西に沈む光景は、まさに西方浄土が山の彼方にあるように感じられ、大和路を多く撮った写真家 故入江泰吉氏の写真集からコピーしましたのでご欄下さい。

また、万葉集に二上山(その時代は ふたかみやま)を読んだ歌が多くあり、飛鳥時代に政争に巻き込まれ謀反の罪で、若くして犠牲になった大津皇子と、その姉、大伯皇女の挽歌があります。入江泰吉氏は二上山上空にかかる夕焼け雲を、大津皇子の怨念の炎のようだと、心象写真にしている、さすがに凄いなと思っています。山上には皇子の墓があり、私は一層二上山の夕景に物悲しさを感じながらも、彼方に浄土の世界を想像させてくれます。何度か足を運びましたがなかなかこんな夕空に出会えません。この場所から真東に神山・三輪山がありその山麓に桧原(ひばら)神社があります。この境内からしめ縄を吊るした鳥居を前景に、二上山に沈む夕日を撮った私の写真を添えますのでお笑覧下さい。

令和3年8月記



1万部の経典は読誦できないので、一瞬で空読み作法をします。(八尾 常光寺にて)



お練りと稚児祭りの行事で、疲れてしまっています。(八尾 常光寺にて)



しめ縄の鳥居をシルエットに靈魂宿る
二上山を遠望(桜井市桧原神社から)



写真家入江泰吉の二上山夕景写真
大津皇子の怨霊を意識させる夕焼け空

